

	達成方策	R6年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
確かな学力の育成	言語能力の育成に向けた授業改善、授業づくりの推進	①「学び方を教える」ことに力を入れ、探求のプロセスに沿った授業を目指す。 ②授業公開週間を設定し、すべての教員が公開授業を行い、授業力を向上させる。 ③「授業力UP5」の基づく授業改善を図る。 ④全国学力・学習状況調査及びみえスタディチェックの全職員での実施や自校採点からの課題から授業改善を図る。 ※全国学力調査の平均正答率 全教科全国・県平均以上 ※みえスタディチェック正答率 全教科県平均以上	①教員の授業意識を変えることができた ②実施できた。 ③Ver.2ができた際に、いち早く共有するなど、授業づくりの基本にできた。 ④学力調査は、国語+4.9、数学+0.5と全国平均を上回る。みえスタディチェックは、1年で国数が県平均を上回り、2年は全教科で下回った。	①授業意識を変えることはできたが、実践まで踏み切れた教員が少ない。 ②取り組みに関して教員間で意識の差がある ③Ver.2が出たときに、旧版との違いを考えることができた。 ④下回った要因として、基礎知識の定着不足がある。	①実践について個人任せではなく達成指標の設定が必要ではないか？ ④校外で基礎から学習させないと授業についていけない(2年)小テスト等で基礎を反復して定着させてほしい。 授業のやり方を変えて色々な生徒に対して学力アップへ良い方向になる事を期待する。 学び方・勉強のやり方についてはしっかりと子どもたちには学んでほしいと思います。 言語能力を育てることは(生徒間の個人差もあり)大変だと思いますが、学力全ての基礎になるので今後も力を入れて欲しい。 発表の場を設けることで抽象的ではなく具体的に説明できることが必須。「コミュ力」を養っていくよう努めて欲しい。 ④基礎知識の定着不足…例えば数学であれば公式に当てはめて繰り返し学習させる。多くの問題を解く、理解するまで粘り強く関わり指導する。達成感や自尊感情や主体性が得られる事が必要と思います。学力の向上については、毎日のご指導と共に公開授業等、様々な取り組みをされた先生方の姿勢のたまものだと思います。全生徒に基礎知識が定着できることを望みます。	市や学校が実施するアンケートの結果を指標の一つにしていく。 学力に関して… ・「わかる」ことが学習意欲につながるため、生徒にとってわかりやすい授業にする。 ・小テストなどを行い、定着を図る。 ・活動の時間をたくさんとることで、指導の必要な生徒に個別で指導できるようにする。
	基礎学力の定着(家庭学習・学習支援・読書活動の充実)	①定期考査前の補充学習(2日間)を行う ②1、2年生は朝の10分間読書に取り組む。読書週間(2回以上)を実施する。	①実施できた。 ②実施できた。おすすめの本の紹介を掲示して読書を薦めたり、朝の10分読書では電子書籍を活用している姿もあった。	成果:定期考査前の補充学習は定着している。 読書週間では、保護者にもコメントをもらうことで、取り組みについて共有することができた。 課題:家庭学習や読書は、生徒個人で意識や取り組みに差がある。	補充学習の実施は保護者としてありがたいです。本人も積極的に参加していました。 家庭学習は個人の努力により変わりますので管理が難しいですが日常より読書等の習慣を推進して欲しい。 テスト前の補充学習は引き続きしっかり行って欲しいです。 子どもたちには沢山本を読んでほしいので10分間読書引き続きお願いします。 クロムだけでなく、手を動かすような学びも残して欲しいと思います。 反復勉強で苦手な教科(単元)を克服することで成功体験を積み上げて欲しい。 家庭での学習習慣を育成する為に適切な課題を与える。 予習や復習の学習方法についてアドバイスするなど工夫する事が大切。 学習習慣の重要性を保護者に説明し、発達段階に応じた学習時間を決める等、家庭と連携しながら取り組みを進める事が大切。 三年生は受験時期ではあるが、前期や一時期でもよいので読書時間に取り組む考えがあってもよいのではないかと。 素晴らしい図書館があるので、平日だけでなく休日の開放日も読書に学習に気軽に利用出来る習慣がつくといいなと思います。	①②ともに継続して取り組んでいく。 学習の進め方がわからない生徒に適切なアドバイスをを行う。 家庭での学習習慣が定着するように課題等を工夫する。
	ICTを活用した授業の改善(一人一台端末による学習の質の向上)	①授業内でICT機器を意図的に使用し、生徒の表現活動の幅を広げたり(個別最適化)、手帳に他者参照をできたりする場面を作る。 ②家庭学習にも活用の幅を広げ、授業と家庭学習のシームレス化を目指す。	①教職員の研修を通して、ICT機器の活用研修や授業についての活用方法について取り組めた。 ②長期休暇の課題にクロムブックを使用する課題が多くなった。ドリルパークに主体的に取り組む姿があった。	成果 教職員の情報活用スキルの向上、使用場面が多くなった。学校アンケートより「お子さんは、クロムブックを使う学習がわかりやすいと感じている。」に対し、肯定的な回答81.7% 課題 クロムブックの使い方(ゲームや学習に関係ないサイト)や情報モラルに対して課題がある。	DXのメリットデメリットは考える必要があると感じます(学力の向上、定着にはアナログの方がよいのでは…と思う部分があります) クロムブックの使用は現在のスマホを当たり前に使用する環境の中では活用出来ると考えています。一人一台ずつクロムブックを持たせて頂いているのだから、自宅学習に活用してほしいです。 評価ではなく希望ですが…私達がイメージする授業は漠然としたものなので様子を見させてもらいたいなとも思います。 これからますますこのような授業が増えると思います。 デジタルコンテンツの強化と紙媒体での勉強法の定着、書いて覚えるのは基本では？ 生徒の「書く力」が低下する恐れがある、生徒の「自分で考えて粘り強く取り組む力」が低下する恐れがある、教員の負担が大きくなる場合がある、このようなデメリットもあるので手書きの時間やアナログ・デジタルのバランスを保って頂きたい。 ICT機器は今の時代に欠かせないものなので、よりよい使い方で学習向上につながると素晴らしいと思います。	・校務DX 調査やアンケートなどをデジタルで行っている。(35%→42.5%) 少しずつ進んでいるが、その都度そもそもこの調査は必要なのかどうかなどの精査が必要。 ・クロムを使用しての学習 授業改善とも絡んでくるが、どのタイミングでクロムブックを使い、どのような効果があるから使うのか指導者側が理解した上で使用し、指導していく必要がある。知識技能をつける上では紙媒体で学習することは必要であると考えている。 ・まとめ これからの時代を生きていく子どもたちにとってはICTは必要不可欠であるため指導者側の学習は欠かせない。
豊かな心の育成	教育的に不利な環境のもとにある子どもを中心とした仲間づくり	合理的配慮をしながら、個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業改善に取り組んだり、小グループを活用したソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターによる人間関係作りを行ったりする。 ※ アンケート調査「安心して学べる学校を目指して」における設問「クラスでは、人に対する思いやりが大切にされている」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の割合 88%(昨年度85.8%)	アンケート調査「安心して学べる学校を目指して」における設問「クラスでは、人に対する思いやりが大切にされている」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の割合 82.2%	○学校全体として、個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業改善を推進することができた。 ●自分から周り関わる事が苦手な生徒に対し、教員が積極的に関わったり周りと繋げたりすることが必要である。	授業改善を今後も推進して各生徒に合ったやり方に対応して下さい。 アンケート調査の内容が知りたいです。 様々な工夫をしてくださり、ありがたいと思っています。 関わり合いになりたくない人とのうまい距離の取り方、会話のキャッチボール、難題かと思いますがサポートを宜しくお願いいたします。 生徒たち一人一人が一人の人間として大切にされているんだという実感が持てる環境作りを引き続きお願いします。 安心して学習できる環境 「人権学習」の定期的開催 自分から周り関わる事が苦手な生徒に対する先生方の関わりはすぐに結果がでるものではなく、時間がかり昔も今も難しい問題だと思います	・自分から周りと関わる事が苦手な生徒に対し、教員が積極的に関わったり周りと繋げたりすることを継続的に行う。 ・総合的な学習の時間における人権学習の時間を確保しながら、学校生活全体を通じて人権感覚を高まられるよう指導していく。

	達成方策	R6年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
健康な身体と体力の育成	保健・健康教育の推進	①ほけんだよりを発行する(月1回) ②生徒保健委員会を通して歯と口の健康づくりを行う。	①達成 ②未達成:よりよい形で実施できるよう検討中。	①保健だよりを通して健康に関する情報提供や生徒の活動などを伝えることができた。	給食後の歯磨き習慣が出来ると思いますが、難しいでしょうか？心身共に健康であること。とりわけこの時代たくましく生きて欲しい。保健だよりの内容がわかりかねますが、このたよりによって「すべての生徒たちが身につけるべきもの」である内容のものであると良いと思います。体・健康はすべての基本ですのでわかりきっているような内容でも定期的な通信は良いことだと思います。	生徒にとって身近な内容を考えさせ、健康について関心を持つ生徒の育成に努めたい。また生涯習慣の改善など毎日の生活に活かせるようにしたい。
	食育の充実	①家庭科での夏休みの自分で作る昼食の宿題 ②学校栄養教諭との連携した授業や、昼の放送を活用して、給食への関心を広げる。	①達成:夏休みの宿題で、家庭で料理をし、レポートを提出した。 ②一部未達:学校栄養教諭と連携した授業は実施できなかった。 家庭科の授業では、6つの基礎食品群などの学習をしてもらった。毎日の給食ではお昼の放送を活用して給食メニューのアナウンスをして生徒に伝えた。 ③学校栄養教諭との連携ができなかった代替えとして、学年集会で食の大切さに関する講義を行い、自分自身の課題としてとらえられるように考えさせた。	○自分で料理を作ることで、食べることの大切さを学び、自分の適正量やいろどりを考える機会になった。 ○給食時の放送で、献立の内容の説明により食に関する伝統や文化の再確認ができた。 ○給食時にコロナ禍以前の班での共食を復活し、楽しく時間を過ごせるようになった。 ○残飯の量が市内で一番少なく、給食時の声掛けをしてもらっている効果が出ている。	地産地消にも取り組まれていて色んな食材味に親しんでいると思います。食育はこれからもしっかりと続けて欲しいです。給食が班で食べられるようになったとのこと、嬉しく思います。また何故食べるのか、心も身体も健やかに保つにはどのような栄養が必要なのか、しっかりと伝えていって欲しいです。食育は生きる為の基本であるので引き続きこの取り組みをお願いします。私も小学生時代「給食委員」をしており、昼に放送していました。以前はあった自分で作る弁当の日が年に1回くらいあってもよいのではないかと結構子どもたちには好評でした)素晴らしい取り組みだと思いました。食べることは生きていく上で欠かせないし、それが楽しいと思える環境、時間は、心の栄養になると思います。	これまでの活動を継続していくとともに、食の大切さについて生徒会とも連携し、生徒に啓発していきたい。
	基礎体力の向上	①「運動嫌い」な生徒を増やさないために、自分の能力や体力に応じた運動に取り組ませる。 ②運動についての自己の課題解決に向け、個々の能力に応じた運動を行える環境づくりの設定を行う(習熟度別やグループ学習など)。	①②ともに達成。	○全体の課題だけではなく、個別の課題を設定することで、生徒たちが運動能力に応じて主体的に取り組めるようになった。 ○各学年全ての領域においてグループ学習を取り入れたことで、運動が苦手な生徒も仲間と協力して取り組むことができた。	中学時代の体力向上は重要な事です。運動習慣が身につく事を期待します。運動が苦手な生徒さんも能力に応じた課題を与えられることにより取り組みやすくなるのは、とても良いと思います。継続していただきたいと思います。運動することの楽しさや体力の大切さを実感させる事で、運動意欲の向上を図り、自主的に運動に取り組む生徒を育み、体力や健康に対する意識が向上するので引き続き取り組みをお願いします。全ての子が運動を好きになることはできないかもしれませんが、体を動かすことの心地良さや必要性、基礎体力の向上が楽しいと思えたら最高です。	①②今後も継続して取り組んでいく。 ・新体力テストの結果を自己分析し、個々の能力に応じた目標を立てさせる。
自律し未来を切り拓く力の育成	長期欠席生徒の未然防止と社会的自立支援の推進	①保護者との連携を密にし、外部機関との連携やSC・SSWの活用を図る。 ②毎日の生活ノートでのつながりや学期ごとに教育相談を実施する。 ※学校アンケート「先生は何でも快く相談のってくれる」に”どちらかといえばそう思う・非常にそう思う”と回答生徒95 %以上 (昨年度2学期95.8%) ※学校アンケート「学校は、子どもたちの相談に親身に応じている」に「どちらかと言えばそう思う・非常にそう思う」と回答 保護者85%以上 (昨年度2学期83.2%) ※長期欠席の割合を5%以下 (昨年度の割合5.2%) ③不登校支援員・教育相談員と連携し、不登校生徒への家庭訪問や適応教室に登校する生徒への支援を行う。	①生徒や保護者をSCにつなぎ支援の見立てでもしてもらった。あすなる分校とのケース会議、関係者会議を実施。子ども家庭支援課、教育支援課と連携し、生徒支援を実施している。杉の子特別支援学校コーディネーに生徒の行動観察を依頼、支援方法の助言をもらった。支援部会の内容を学年会でも共有し支援のアプローチについて検討した。 ②生徒アンケート「先生たちは一人ひとりのことを大切に考え、指導してくれる」”どちらかといえばそう思う””そう思う”と回答94.6% 「先生たちは困ったとき快く相談に乗ってくれる」”どちらかといえばそう思う””そう思う”と回答95.8%(2学期)長期欠席、30日以上4.3%(内不登校生徒2.4%) (10日以上10.2%) ③毎週金曜日に2～4限教育相談員が適応教室で生徒への対応を行った。	○新規の生徒もSCにつなげることができた。 ○教育相談などを通して教員が生徒の相談に丁寧に対応していることが生徒のアンケート結果に反映されている。 ○支援部会で支援方法について検討し、学年会でも情報共有し実行した。 ○教育支援課、子ども家庭支援課、杉の子特別支援学校コーディネーターなどのと連携し支援 ●今後も長期欠席生徒の未然防止と支援に取り組んでいく必要がある。	(個人的な思いですが…)必ずしも集団生活を送る事がマストではない世の中、最低限オンライン等で学習の機会を設ける等があれば保護者の不安は軽減できる気がします。理由が様々ある中、教員が対峙するのも限界があり防止策により力を入れて取り組まれると良いと感じます。長期欠席の問題は大木中だけの事ではありませんが、教員の方の支援を今後もお願いしたい。生徒も親も何か困った事が起きた時はいつでも相談できるようにSC・SSWの活用、生活ノートの実施を今後もお願いしたいです。生徒も保護者も先生方をとても頼りにしていると思います。様々なケースがあり支援が難しい時もあるかと思いますが、今後どうぞ宜しくお願いします。民生児童委員活動において見守り訪問の対象でなくても通知があれば対応させていただきます。長期欠席の生徒は、小学校から欠席が多いと聞いています。小中通しての対応、対策を市県レベルでも考えてもらえるとよいと思います。先生方のご指導、努力の結果がアンケートにも反映されていると思います。長期欠席の生徒が少しでもいい方向になることを願います。	・教職員同士の連携及び外部機関との連携を図りながら①②を継続する。 ・今後も引継ぎ支援会議などを通して小中連携を図る。
	特別支援教育の推進	①個に応じた具体的な支援方法(適応教室Sクラス、TT、少人数学習等)や合理的配慮を推進する。 ②週に1回支援部会をもつ。必要に応じてケース会議や支援会議を開き、支援に活かす。 ③SCに生徒の行動観察をしてもらい、効果的な支援方法の助言をもらい、支援を行う。	①1年生数学で少人数授業やTTを実施。適応教室は2限～5限に開校。 ②支援部会で情報共有を行い、支援の方法の確認を行った。 ③SCからフィードバックをもらい支援に活用。	○国際教室ができたことで外国籍の生徒の支援が手厚く行えた。 ○学習ボランティアや学習支援員に支援に入ってもらい、サポートを行ってもらった。 ○SCから支援のフィードバックをもらい、支援に生かした。 ○杉の子特別支援学校のコーディネーターに助言をもらい支援に生かした。 ●少人数学習を継続して行えるとよい。	宜しくお願いいたします。様々な生徒に対する細かい配慮は確実にいい結果に繋がると思います。	・教職員同士での連携を図りながら①②③を継続する ・時代の変化に応じた特別支援教育に関する知識・技能のアップデートを行う。
	キャリア教育の推進	①生徒が社会的・職業的自立に向けて各学年の成長具合に合わせた取り組みを行う。具体的には「職業調べ」(1年生)「職場体験学習」(2年生)「高校授業体験講座」「進路指導」(3年生)。 ②キャリアパスポートを活用し、自分の生き方について見つめることで系統だったキャリア教育を行う。 ③進路通信、進路説明会、保護者会を通じて様々な情報発信や相談会を行う。 ※ 学校アンケート「進路や職業について適切な情報提供や指導を行っている	①達成:1年生は「進路学習」2年生は「職場体験学習」、3年生は「高校授業体験講座」を実施し多くの企業や高校の協力を得ることができた。生徒の、具体的かつ主体的に自身の進路を考える契機となった。 ②達成:「職場体験学習」を11月に実施し、仕事に向かう大人の姿や外部講師によるマナー講座を通じて多くの学びを得た。 ③達成:進路通信や学年通信などで、保護者への情報提供を行った。	◇日常の学校活動こそキャリア教育であることの意識をつけられた。◇職場体験学習の実施で、地域の企業の協力を得て生徒たちは貴重な体験できた。◇高校体験はよい機会であった。◆「働く」ことは厳しいばかりでなく、自己実現の一つとして、大きなやりがいを感じることにつながる意識付けとなる働きかけをしていきたい。◆自己実現」ができる進路を生徒が主体的に選択していくよう、発達段階に合わせて取り組んでいきたい。◆進路通信など学校からの配布物が保護者の手元に届かない場合があると思われる。	③進路について3年からではなくもっと早いタイミングで取り組みがあると嬉しいです(本人の意識づけにもなる)各校の偏差値、評定目安等、塾に行っていないと情報が入手できない。保護者への連絡は重要な事と考えます。メール配信等を有効にして確実に届けれる様にして下さい。来年度も是非継続して下さい。インターアクトを通して社会貢献の大切さを学んでほしい。生徒たちの意欲が感じられる結果だと思います。	進路学習については、一年生の二学期から行い、高校進学や自らの進学について指導を行った。職場体験学習を通して、生徒もなぜ学ぶのかを考えるきっかけになったと思う。進路に関する情報を公開し、引き続きキャリアに関する教育を行っていく。
	生徒会活動の充実	①生徒会通信や、クラスルーム、放送、始業式・終業式等の集会などを有効に使い、生徒会の活動内容の情報共有。 ②楽しい学校生活を送ったり、SDGsへの理解を深められる生徒主体の活動を行う。	①達成:生徒全員が入っているクラスルームで生徒会通信を配信したり、対面式や終業式・始業式でスライド等を活用し生徒会の活動を発信している。 ②達成:学年を超えた仲を深める為のレクリエーション大会を開催したり、防災に関する展示を行ったりした。	○昨年度の反省を生かし、集会だけでなく、普段から生徒会の活動を発信できるクラスルームを作成できた。 ○生徒会役員のしたかったレクリエーション大会を開催できた。 ○防災に関する展示を行い、生徒の防災意識を高めることができた。 ●行事の中に生徒会主体の活動を入れることができなかった。	生徒さんたちが主体的に活動をさていくようで素晴らしいなと思います。またその活動を支えてくださる先生方にも感謝します。地域とのつながりも深めて欲しい。子ども達に以前の校則が変更になった工程を知ってもらい、自分達で作る・変えることが大切ということをもっと知ってもらい実践してほしい。特定の日だけでなく、日頃からの意識が生徒主体の活動になったのだと思います。これから先も楽しみです。	防災への取り組み等は、地域と連携し取り組みを広げていきたい。

	達成方策	R6年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
安全で安心な学校づくり	いじめを許さない学校づくり	①全教職員がいじめを許さない学校づくりへの当事者としての自覚を深め、早期発見や早期対応に尽力する。 ②生徒会が中心となり、生徒が主体的にいじめ問題について考え、いじめ防止に向けた取り組みを行う。 ③毎日の生活ノート、定期的なアンケートや教育相談を実施し、生徒がいじめを訴えやすい体制を整える。 ※ いじめアンケートの実施(年3回)及び認知事案についての保護者連絡(100%)	①達成:全職員でいじめ基本防止方針を確認し、いじめを許さない学校づくりへの当事者としての自覚を深めた。 ②達成:4月と11月にピンクリボン活動の啓発をし、いじめ防止の取り組みを行った。ピンクの名札の作成や挨拶運動などを行った。 ③達成:生活ノートの提出により教員と生徒の関係構築に役立てた。また、定期的なアンケート・教育相談は計画通り実施できた。 ※いじめ認知件数 15件(2学期末)。 ※保護者連絡 100%	○いじめアンケートやいじめを確認した際には学年職員を中心に早期対応・解決につながるように取り組み、重大事案にならないようにした。 ○道徳や総合、学活などで生徒間の横のつながりを増やし、相互の理解を高める取り組みを進めることができた。 ○生徒会が中心となっていじめ防止の取り組みを全校生徒でできた。 ●今後もアンテナを高くして、未然防止に努めていく必要がある。 ●生徒に寄り添いながら未然防止に努めているが、SNS上のトラブルでは問題発覚した際にすでに深刻化している場合もある。学校だけでなく家庭とも協力して行く必要があると感じた。	発生した際に声を上げやすくする取り組みとして更に心理的安全性を高める必要があると思います。また生徒間だけでも限らないのかなと思いますので、第三者機構等も窓口として設けることも有効ではないかと思います。 いじめ防止については継続して対応してほしい。 「いじめ」はなくならないと思います。どう対処するか、どうしたらいやがらせをなくするかは永遠のテーマだと感じます。 「いじめを許さない学校づくり」をこれからも取り組んでほしいです。いじめをしても、いじめをされても、いじめを見てみないふりをして、ダメだと思います。心のサインをキャッチするのは難しいですが、早期対応・解決につながるよう従来通りのご指導宜しくお願いいたします。 全教職員が「いじめ」に対しての指導方針に対して明確化されているので安心しています。引き続きお願いします。 課題を明確化して更なる「いじめ」の減少、強いては「いじめ」のない学校になるようお願いします。 1/8の中日新聞の生活「子どもってワケわからん」の欄に”助けてと言えない”という記事がありました。いじめやSNS上のトラブルに関してもまず、周りの大人になんでも言える雰囲気、環境が大事なのではないかと…それは家庭、学校以外の地域の人とも一緒になって意識しなければならないと改めて思いました。	・全教職員がいじめを許さない学校づくりを心がける。 ・いじめが発生した時の情報共有、連絡などを速やかに行う。 ・SNSなどのトラブルについては、家庭や外部機関との協力を行ってきたい。
	交通安全教育の推進	①地域・PTAと連携した交通安全指導の実施(年間9回) ②交通安全教室の実施や全校集会での啓発を行う。 ③交通委員による啓発ポスターの作成、お昼の放送で交通安全の呼びかけを行う。 ④定期テスト日の一斉下校の際の下校指導(通学路巡回)を各学年で行う。 ※学校アンケート「交通ルールを守っている」生徒95%以上(昨年度95.8%)保護者95%以上(昨年度95%)	①実施した。 ②1年生で交通安全教室を実施。 ③前期交通委員で啓発ポスターを月ごとに作成した。交通安全週間に合わせて昼の放送で交通安全の呼びかけを行った。後期はスライドを使って全校集会などで交通安全啓発を行う。 ④学校アンケート「交通ルールを守っている」生徒93.4% 保護者96.5%	○交通委員会で啓発ポスターを作成したり、昼の放送で交通安全の呼びかけを行い啓発をした。前期は水曜日のお昼に駐輪場で自転車の止め方と鍵の抜き忘れチェックを交通委が行った。 ○1年生を対象に交通安全教室を実施した。 ●地域の方から生徒の自転車の交通マナーに関して連絡が入ることが度々あった。引き続き学級での呼びかけをしていく。	ノーヘル・スマホを触りながら自転車に乗っている高学年を見かけます。加害について学習に取り入れてほしい。 自転車の交通ルールが厳しくなりました。ヘルメット着用の徹底等推進して下さい。 ヘルメットを正確にかぶってもらいたい。時々ひもをしていない子を見かけます。 交通安全教育は引き続きしっかりお願いします。中学生までに自転車に乗りなれていない子がいるようなので登下校が心配です。 自転車の運転姿で気になる時がありました。定期的に啓発して頂きたいです。 遅刻しそうな生徒が県道をかなりのスピードで走行していたのを見かけました。注意喚起願います。 通学路の合同危険箇所点検をはじめとした総合的な安全対策の実施(検討) PDCAサイクルに基づき、通学路の安全対策の改善及び充実をお願いします。 定期的に交通安全指導をおこなっているので後は生徒自身の意識だと思います。それと共に私たち大人も交通ルールをきちんと守らなければ子どもたちに対して説得力がないと思います(自動車走行に関してのスピード、黄色信号での侵入、一旦不停止、歩行者の左側通行、自転車の右側通行など…)	交通状況の変化やそれに伴う法改正について、引き続き啓発と指導を行うとともに、家庭や地域においても子どもたちを守るための行動について協力を求めています。
	防災教育・訓練の推進	①避難訓練を每学期(年4回)実施する。 ②防災カルテ等の作成、年間計画や避難行動等のマニュアルの見直しを行う。 ③震災を教訓にした防災教育を行う。 ④校区小学校と連携した津波避難訓練(1年生)を実施する。 ※学校アンケート「災害危機管理について、保護者・地域との連携を図っている」に「非常にそう思う」と回答した保護者15%以上 (R5年度9.9% R4年度7.3%)	①未達成 ②③達成 ④未達成(R6年度9.8%)	①の学期に4回という訓練は達成できていないが、④の校区小学校との連携は箕田小学校と連携し、全校生徒での避難訓練を行った。しかし、非常にそう思うと考える割合が低いとため、周知が必要であると考えます。	②状況に応じて避難場所を変えることもご検討頂きたいです(垂直避難ではない事に疑問を持つ保護者も多いと思います) 災害に対する意識向上して、まず自分の安全確保その後の人助けを可能にする人間力アップを推進してほしい。 いつ起こるか分からない災害、日頃より防災教育訓練を引き続き宜しくお願いします。 避難するところまではしっかり出来るようなので、訓練としては異なる状況で災害にあったらどのように行動するかも考えられるようになってほしいと思います。 天災の意識付けで防災教育の向上をはかってほしい。 ①②③④も引き続きお願いします。それ以外、防災教育は究極的には命を守る事を学ぶ事ですが、その為には災害発生の理屈を知る、社会と地域の実態を知る、備え方を知る(学ぶ)、災害発生時の対処の仕方を学ぶ、そしてそれを実践する事なのでそのことを踏まえた学習をさせて下さい。 地震・津波などの災害は学校だけでなく地域との連携がとても大切だと思います。大木中自体が避難所になっているのでそこも考えて今後行ってほしいです。 防災意識は自分自身も低いので反省しています。地域としての周知と共に若い時からの意識づけは必要だと思います。	訓練を事前に伝えてしまっでは、本気度が足りないというアンケート結果があった。生徒会や地域の方とも協力し、実際の震災時のとき、命を守る避難訓練を提案していきたい。
	施設・設備点検の徹底	①施設・設備の安全点検を、每学期実施する。(年3回)	①達成	○定期的に安全点検を実施し、修繕箇所等が発見された場合は、迅速に市教委と連携し、修繕等を行った。	新しい施設の維持をお願いします。 定期点検をお願いします。 安全な環境は学校生活がより一層居心地がよく、すべての面にプラスになるので嬉しいです。	新設校舎であっても修繕や維持管理の課題が生じるため、日常的な点検を行うとともに、生徒と職員がともに施設を美しく保つ努力が必要である。
開かれた学校づくり	部活動の在り方や図書館の活用など課題の協議推進	①「部活動の在り方」や「図書館・会議室の活用」を学校運営協議会で協議する。 ②図書館司書中心に学校と地域・地域図書館CDの連携により、休日の図書館・会議室の地域活用を実施する。 ※学校運営協議会委員へのアンケート等により検証	①達成 ②未達成:検討や試行を行い、よりよい形での実施を図る必要がある。	○重要項目について、活発な協議を行うことができた。 ○図書館開放委員会を設置し、図書館開放を試行することができた。 ▲地域活用を推進するために、地域の方々の認知を広げる必要がある。	地域の方の協力もありますので図書館の活用を推進して下さい。 休日の図書館利用者がもう少し増えるといいなと思います。 活字を追うこと。朝読は続けて頂きたい。 直接地域に言うより小学校を通じてその父兄を巻き込んで行うことはできないか。 地域住民としても図書館開放はもっと知らせるべきだと感じています。‘学校‘の図書館はハードルが高いと思っている人が多いようなので‘気軽に’と言葉を添えています。	・図書館開放委員会を設置するなど、運用にかかる協議の場が必要である。
	地域づくり協議会との連携推進	①若松、長太、箕田、若松の地域づくり協議会で広報し、地域人材の活用を図る。 ※部活動外部指導者1人以上の配置 ②部活動地域移行について進捗状況の周知を行う。	①未達成 ②達成(継続中)	○学校運営協議会委員からの働きかけにより、長太、箕田、若松の地域づくり協議会で広報することができた。 ○部活動地域移行の進捗状況について周知を行うことができた。 ▲応募される方はなく、地域人材の発掘について引き続き周知する必要がある。 ▲引き続き今後の動向について周知を図っていく必要がある。	生徒の地域貢献をして頂ける事をお願いしたい。地域との情報共有も推進したい。 各地区のまちづくり協議会では色々な行事が沢山あります。その活動の中で発掘して頂いてはどうでしょうか？ 引き続き宜しくお願いいたします。 回覧板等、中学校から地域への情報伝達が少なくなっていないか？ 部活動の地域移行はとても難しいと思います。応募される方がいないというのも時間に余裕のある人は年齢が高く体力的に無理な方も多く、30～50代の方は本来の仕事があり、帰宅後や休日は休養も必要です。お金だけの問題ではありませんが、無償で心身ともにハードな活動は難しい気がします。	・部活動地域移行についての理解促進を行うとともに、外部指導者の確保が課題である。
	校区小学校との協働	①校区小中学校長会を年12回開催し、校区連携を推進する。 ②8月に校区合同研修会を開催する。 ③オンライン等を含めた小中の専門部会を年3回実施する。 ※学校アンケートによる検証	①達成 ②達成(11月実施) ③達成	○校区小中学校の研修、人権、特別支援、不登校の担当者が定期的な情報交換会を実施することができた。 ▲小中学校のつながりが進展したが、具体的かつ十分な連携の取組にまで至っていない。	小中学校のつながりを密にしていだくよう切に願います。 中学校の授業を小学校で模擬体験などでできれば面白いと思います。 小中学校9年間で子どもを育てようとする気持ちを感じられます。	義務教育終了時の成長を念頭に、小中がめざす子どもの姿を共有して、成長過程に応じた教育を行うことが大切である。

	達成方策	R6年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
働きやすい環境づくり	総勤務時間の削減	①「定時退校ウィーク」「留守番電話の設置」「メールを活用した欠席連絡システム」を活用して、総勤務時間の削減を図る。 ②土日の活動や参加大会の精選などによる、部活動への従事する時間の削減を行う。 ※学校アンケートによる検証	①未達成 ②未達成	○「留守番電話」「メールを活用した欠席連絡システム」を設置し、負担軽減を図ることができた。 ▲部活動に従事する時間が大きく影響している。	先生方が働きやすいよう「働き方改革」をして頂きたいです。 オーバーワーク、深刻な問題です。健康を脅かす。キャパオーバーにならないで下さい。 先生方も労働時間が気になりつつも膨大な業務の対処に日々苦勞されていると思います。お体優先で願います。	・保護者対応については、保護者の帰宅後の対応となることが多く、勤務時間外の業務とならざるをえない。現状に対して学校のみで打開策を見出すことは難しい。
	部活動指導員の活用	①卓球部に部活動指導員(1人)を配置し、顧問の負担軽減を図る。 ※学校アンケートによる検証	①達成	○卓球部に部活動指導員(1名)を配置することができた。 ▲職員の土日の時間外労働軽減について、地域人材等の活用を広げる必要がある。	部費の徴収、外注化でもよいのでは…(労働者の高年齢化でボランティアも難しい状況では?) 地域と情報共有して地域として何が出来るか検討の必要がある。 卓球部良かったです。	・協力依頼の周知を続けているものの、依然として地域人材は0の状況が変わらない。